

## プロジェクト ユニバーサル農業の推進

## 目 標

・農福連携に取り組む農業経営体数 R4：88経営体 → R10：200経営体

## 挑戦する内容

- ・農業者等の理解促進と受入機会の提供
- ・ワンストップ窓口の機能強化と人財の育成
- ・ユニバーサル農業の輪の拡大

関係者の声  
＝対話

- ・農業者の理解を進めるための周知活動や取組のきっかけづくりが必要  
(農業者、福祉事業者)
- ・ワンストップ窓口の運営を支援してほしい(福祉事業者の声)
- ・農業者と福祉事業所をマッチングするコーディネーターが必要(農業者、福祉事業者)
- ・ノウフクJASなどのノウフク商品を消費者にPRしてほしい(農業者)
- ・特別支援学校生徒の農作業体験の場の確保が必要(教育関係者)
- ・農福から林福、水福へと農林水産業全体へ取組を拡大してほしい(アドバイザー)
- ・農福連携に対応できる福祉事業所の情報を県で把握し共有してほしい(農業者)

## 役割分担

全県段階～青森県ユニバーサル農業推進会議において、推進の方向性と施策等を検討、協議  
(ユニバーサル農業実践者、生産者、福祉・商工・教育・金融関係、市町村、県等で構成)

地域段階～県民局：連絡会議等の開催、農協：チャレンジ農福の実施及び農業者への周知  
農業者・福祉事業所：ユニバーサル農業の実践  
特別支援学校：農業実習・交流会の開催、市町村：農業者・福祉事業者への周知

## 変革後の姿

- ・多くの農林水産業者が取り組む環境を整え、障がい者等が担い手の一員として活躍し、農業経営が発展
- ・障がい者等が安定的な収入を得ることで生きがいを持った暮らしを実現
- ・一般県民にユニバーサル農業が浸透し、ノウフク関連商品が選ばれる社会

## 令和7年度計画

## 挑戦する内容

- 1 農業者の理解促進と受入機会の提供
  - ・農業側と福祉側へ個別巡回による普及啓発
- 2 ワンストップ窓口の機能強化と人財の育成
  - ・福祉事業所ごとの作業内容データの充実
  - ・ワンストップ窓口の事業所に対する活動支援(3件)
  - ・コーディネーターの実務研修の開催
- 3 ユニバーサル農業の輪の拡大
  - ・農業高校と特別支援学校の農業交流促進(3高校)
  - ・生きづらさを感じている方々など、対象の領域拡大に向けた先進事例調査



ユニバーサル農業推進会議



農業高校と特別支援学校との農業交流

## 対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築(7月、1月)
- ・全県段階
  - 青森県ユニバーサル農業推進会議を開催し、委員と事業計画等について意見交換の上、意見を事業内容に反映(7月)
- ・地域段階
  - 各地域で連絡会議等を開催し、農業者と福祉事業所とのマッチング方法等について意見交換を行い地域ごとのワンストップ窓口の機能強化策を検討(各地域3回)